

いのししとかめ

(長野県)

むかし。いのししは首が長く、かめは背が高かったころのことです。あるとき、動物がたくさん集まって、力くらべをしました。そのうち、いのししとかめが押し合いっこを始めました。

「いのししがんばれ」

「かめさんがんばれ」と、動物たちは、あっちからもこっちからもよって来て、大ききになりました。けれども、どうしたって、かめがいのししに勝てるわけがありません。とうとう、かめは押しつぶされてぺしゃんこになってしまいました。

いのししは、大いばりで、

「おれは、力も強いけれど、走りっこも強いぞ」といって、いきなり走りだしました。ものすごい勢いで、飛ぶように走って行きました。そして、曲がり角まで来たとき、角を曲がれなくて、目の前の大きな岩に頭をぶつけてしまいました。それで、首がからだにめりこんで短くなってしまいました。

そういうわけで、今でも、かめはぺしゃんこだし、いのししは首が短いのだそうです。おしまい

原話…『伊那民俗叢書第2輯「昔ばなし」』信濃郷土出版社刊
再話…村上郁